

## 平成 27 年度全国学力・学習状況調査(小学校)

## 算数 A

主として「知識」に関する問題

## 平均通過率

市	81.3%
国	[75.2%]
県	(77.7%)

## 区別定着状況

【数と計算】	86.0%	[80.1%]	(82.3%)
【量と測定】	79.6%	[71.3%]	(76.9%)
【図形】	69.5%	[64.5%]	(66.4%)
【数量関係】	91.2%	[84.9%]	(85.5%)

※ [ ] 内は全国平均を, ( ) 内は県平均を表します。

## 正答率の高い設問(上位3問)

- 繰り上がりのある2位数の加法の計算(問2(1)) 97.9% [98.2%] (98.3%)
- 式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解する(問8) 93.7% [88.1%] (89.2%)
- 除数が整数である場合の分数の除法の計算(問2(4)) 93.0% [84.2%] (86.3%)

## 正答率の低い設問(下位3問)

- 示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を、選択すること(問5(1)) 55.6% [50.6%] (53.8%)
- 円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めること(問5(2)) 69.7% [64.5%] (65.5%)
- 日常生活の中で必要となる時刻を求めること(問3) 70.4% [74.8%] (74.2%)

## 算数 B

主として「活用」に関する問題

## 平均通過率

市	46.6%
国	[45.0%]
県	(46.7%)

## 区別定着状況

【数と計算】	43.5%	[42.4%]	(43.7%)
【量と測定】	43.9%	[41.7%]	(42.4%)
【図形】	48.4%	[45.6%]	(47.6%)
【数量関係】	41.3%	[43.0%]	(43.9%)

※ [ ] 内は全国平均を, ( ) 内は県平均を表します。

## 正答率の高い設問(上位3問)

- 平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解している(問1(1)) 96.5% [95.2%] (96.1%)
- 単位量当たりの大きさを用いて、目的に応じた買物の仕方を選択し、代金を求めること(問2(1)) 67.6% [64.8%] (65.2%)
- 四捨五入して千の位までのおよその数にして計算すること(問4(1)) 63.4% [52.6%] (56.1%)

## 正答率の低い設問(下位3問)

- 示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めること(問2(2)) 7.0% [13.1%] (12.9%)
- 長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述できる(問5(1)) 13.4% [12.5%] (13.7%)
- 概数を用いた見積りの結果とそれに基づく判断を理解し、3000個集めればよい理由を記述できる(問4(3)) 22.5% [22.3%] (23.3%)

## ○考察

算数A、算数Bともに全国平均を上回っており、これらの学習内容はおおむね定着していると考えられます。

## ○今後の指導について

今後、算数Aに関しては、図形の構成を図形の特徴と関係付けてとらえさせる指導の充実を図る必要があります。

また、算数Bに関しては、日常生活の事象の解決に、単位量当たりの大きさを活用して合理的に判断させ、能率的に処理させたり、示された考えを基に、根拠となる事柄を過不足なく説明させたりする指導を充実させる必要があります。